

平成30年度学校評価自己評価書(豊山町立志水小学校)

経営理念	学校教育目標…力いっぱいがんばる子の育成 めざす児童像…進んで学ぶ子 仲よく助け合う子 元気でたくましい子 めざす教職員像…子どもを大切にする教職員 学び続ける教職員 協働する教職員
------	---

資料1

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった

経営目標	重点努力目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○進んで学ぶ子（確かな学力）の育成	・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	1	村川 森下 森山	①授業や朝の学習タイムでの反復練習の指導を工夫する。 ②算数では、授業の始めに「本読み計算」を行う。 ③学年に応じた家庭学習の習慣づけを行う。 ④漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導をする。 ⑤夏休みに、計算力に課題がある3年生以上の児童を対象に算数教室を実施する。	①授業や朝の学習タイムでの反復練習の指導を工夫したか。 ②算数では、「本読み計算」を継続的に行ったか。 ③家庭学習の習慣づけができたか。 ④漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導を行ったか。 ⑤算数教室を実施し、計算力のアップに努めたか。	児童 ①3. 4 ③3. 4 ③3. 3 ④3. 4 ①43. 3 保護者 ①3. 1 ③2. 8 43. 0 職員 ①3. 2 22. 5 43. 1 42. 9	概ね基礎学力定着のための反復練習を行うことができていた。算数の時間に「本読み計算」を実施することができているが、毎時間は取り組めていない。児童アンケートからは、集中して取り組めているとの回答が得られた。家庭学習については、職員は「量や内容を工夫している」、児童は「進んで取り組むことができた」との回答が多いが、保護者は「進んで取り組んでいない」と感じている。漢字・計算コンクールの実施により、基礎学力の不足している児童には、補充や追試を実施している。その結果が基礎学力の向上に繋がっていると考えられる。 本年度は、猛暑の影響で、算数教室を実施しなかった。	朝の学習タイムでの反復練習や家庭学習の内容、工夫の仕方、個別に支援が必要な児童の家庭学習の量などを教員同士で意見交換できるとよりよい指導へつながると考えられる。 各クラスの「本読み計算」の実施状況にばらつきが見られるので、年度当初に、取組についての方針が示されると実践しやすいと考えられる。
	・「聴き合い、学び合う」活動を取り入れた主体的・対話的で深い学びのある授業展開 ※全ての児童の学びを保障	2	山下 日置 伊藤	①「学び合い」をどの場面でどのような形態で行うかを、単元構想に位置付け、日々の授業で意識して実践を行う。 ②グループ隊形を活用し、いつでもわからないことを聴いたり、考えを聴き合ったりできるようにする。 ③ペア学習やグループ学習において、考えの伝え方・聴き方・つなぎ方を例示するなどの工夫をする。 ④「学びたい」という意欲がもてるような課題の質と課題提示の仕方を工夫する。 ⑤「学び合っていること」や「寄り添って一緒に考えていること」を褒める。	①単元構想の中に「学び合い」を位置付けて、実践することができたか。 ②わからないことをたずねたり、考えを聴き合ったりさせることができたか。 ③ペア学習やグループ学習において、考えの伝え方・聴き方・つなぎ方について発達段階に応じた工夫を行えたか。 ④意欲がもてるような課題を探し出し、課題提示の仕方を工夫できたか。 ⑤「学び合っていること」や「寄り添って一緒に考えていること」を褒めることができたか。	児童 ①3. 3 23. 2 23. 5 33. 1 43. 4 保護者 ①2. 9 22. 9 32. 9 43. 0	児童アンケートの結果から、児童はペアやグループ活動において、友達を考えを聴いたり、分からないことを尋ねたりすることができており、「学び合い」ができていると言える。また、自分の考えをもつこともできている。 職員アンケートの結果から、各自の評価が低いところに、課題がある。「学び合い」を意識して授業を行っているものの、考えの伝え方やつなぎ方に課題を抱えていると考えられる。	自分の考えを伝えるという点では、「とても」と回答する児童が少ないことから、考えを伝えるための方法を示していく必要がある。 「学び合い」を褒めることができたかというアンケートについても「あまり」と回答する職員が20％いることから、活動のよいところを見つけ、積極的に児童を褒めていく必要がある。褒める面で、具体的なよさを取り上げることで、児童は自信をもって自分の考えを伝えたり、ためらわずに分からないことを尋ねたりすることができるようになるのではないと思う。
	・プログラミング的思考の育成 ・外国語活動の充実	3	内藤 三浦 伊藤	【プログラミング的思考の育成】 ①算数や理科の授業で、プログラミング的思考の育成を意識した授業を行う。 ②高学年で、プログラミングができるソフトを利用した出前講座を行う。 【外国語活動の充実】 3・4年:外国語を「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しませるための授業実践を行う。 5・6年:「聞くこと」「話すこと」に加え、「書くこと」に慣れ親しませるために担任を中心とした授業実践を行う。	【プログラミング的思考の育成】 ①算数や理科の授業で、プログラミング的思考の育成を意識した授業を行うことができたか。 ②高学年で、プログラミングの出前講座を行うことができたか。 【外国語活動の充実】 3・4年:外国語を「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しませるための授業実践を行えたか。 5・6年:「聞くこと」「話すこと」に加え、「書くこと」に慣れ親しませるために担任を中心とした授業実践を行えたか。	児童 33. 7 43. 7 保護者 342. 9 職員 ①1. 8 21. 2 31. 5 43. 3	【プログラミング的思考の育成】 職員アンケート結果から、算数や理科の授業で、プログラミング的思考の育成を意識した授業を行うことはあまりできなかった。 プログラミングの出前授業を4・5組で実施した。操作することで、絵を動かすための手順について体験できた。 【外国語活動の充実】 児童は「外国語」「外国語活動」の授業は楽しく参加できていると分かった。 5・6年については、担任が授業できるように担当者が15時間分の指導内容を表にまとめた。	【プログラミング的思考の育成】 3学期より導入された「Ipad」を有効活用する。プログラミングの指導を行えるような教員の研修を今年度同様行う。 出前授業については、教員研修をふまえて、児童に合った内容の授業を実施していく。 【外国語活動の充実】 保護者アンケートと児童アンケートの評価の差が大きいことから、1・2学期に公開授業で「外国語」「外国語活動」の授業を実施する必要性があると感じる。 担任は、T1として授業展開を次年度以降しっかりと行っていけるよう、教員各個人の研鑽を行う。
○仲よく助け合う子（豊かな心）の育成	・多面的・多角的に考えて議論する道徳科の充実 ※自我関与させる発問の工夫 ※役割演技・動作化の活用 ※道徳的成長を見取った評価	4	笠巻 中川 辻	①道徳科の授業研修や教師間の授業公開により、教師が、問題解決的な視点に基づいて授業を組み立てる力を高める。 ②道徳科の授業を体験的な活動（行事や教科）と関連付けて計画・実施する。 ③道徳科の授業における学び合いを通じて、児童が、多面的・多角的に物事を考えることができたかどうかを検証する。 ④児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める。	①道徳科の授業を計画的に行うことができたか。また、発問や展開の工夫をすることができたか。 ②児童が、道徳科の授業に、体験的な活動と道徳的価値とを関連させて考えることができたか。 ③道徳科の授業における学び合いを通じて、児童が、多面的・多角的に物事を考えることができたか。 ④児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすことができたか。	児童 23. 4 33. 4 33. 3 職員 ①2. 9 12. 6 ①22. 9 32. 6 43. 1	道徳が教科化されたことで教員の意識が高まり、以前より計画的に授業を行ったり、役割演技を取り入れるなど児童の表現方法を工夫した授業を組み立てたりすることができるようになってきた。 アンケート結果によると、話し合ったり聞き合ったりすることができていると考える児童が多く、授業の中で「学び合い」ができる活動場面がきちんと設定できていると言える。 今年度から、「どうとくファイル」にワークシートや振り返りを蓄積し、その後の授業改善に役立てることができている。	「どうとくファイル」の蓄積から児童の変容を見取るなどの点では、十分には活用できていない。更なる活用の工夫が必要である。
	・あいさつ、返事の励行 ・思いやりや感謝の心、自己有用感を育む児童主体の体験活動の実施 ・児童の心に寄り添った教育相談活動の実施	5	藤井 後藤 小塚 吉本	①代表委員会のメンバーで『学校見守り隊』を結成し、月2回、挨拶運動を行う。また、全校児童が挨拶運動に参加できるように『あいさつやってみ隊』を募集する。 ②あいさつウィークを設定し、挨拶・会釈を習慣づけする。 ③児童会主催の集会を設け、「企画運営委員会」で企画・運営を行う。必要に応じて代表委員会に協力を呼びかけ、集会を進行する。 ※1年生を迎える会（4月）…全校で1年生の入学を祝う。 ※運動会の応援合戦（5月）…6年生が中心となって運動会を盛り上げる。 ※チャレラン大会（7月）…各クラスで運営し、交流を深める。 ※クリスマス集会（12月）…会場の飾り付けやゲーム等の進行をする。 ④縦割り班を編成し、清掃や集会、読み聞かせ等の活動を行い、縦のつながりを深め、思いやりや感謝の気持ち、自己有用感を育むことを目指す。 ⑤いじめに関するアンケートや教育相談、チャンス面談を実施し、こころの健康の増進を図り、安心して生活できる学校づくりに努める。	①児童は、進んで挨拶・会釈をすることができたか。 ②集会や行事、縦割り班活動等を通して、児童の自己有用感を高めることができたか。 ③児童が安心して学校生活を送ることができたか。	児童 ①3. 4 33. 7 33. 7 43. 6 53. 4 保護者 ①3. 1 33. 6 53. 3 職員 ①3. 3 23. 3 33. 6 53. 2	児童のアンケートでは、「自分から進んであいさつができている」と感じている児童が多い。しかし、保護者のアンケートを見ると評価が少し落ちるので地域でのあいさつに課題が残ると考えられる。 集会や行事には、意欲的に取り組むことができている。家庭にも頑張っている様子がよく伝わっているようにも感じる。 どのアンケートを見ても全体的によい結果である。	教員が「進んであいさつができるよう指導した」という項目は改善できるように思う。学校全体で、統一した指導を来年度はより図れるとよい。 児童の16％は困ったことや心配なことを相談できる相手がいらないという結果に目を向け、どの児童も安心して学校生活が送れるように注意して児童の様子を見ていく必要がある。

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった								
経営目標	重点努力目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○元気でたくましい子（健やかな体）	・健康教育、食育の推進 ・体育的な行事・活動の充実	6	伏見宮外廣下	①歯みがきチェックカードや歯みがきカレンダーを行い、歯みがき習慣の定着を図る。 ②昨年度までの成果を生かし、朝ごはんチェックを継続し（年1回）、バランスのとれた食事に対する意識の継続を図る。また、親子ふれあい給食での栄養教諭による指導や1・2年生の出前講座を通して食育の指導を行い、日常の指導に生かす。 ③志水っ子ランニングで、ランニングカードを活用し、運動への意欲を高めたり、体力の向上を図ったりする。 ④なわとび運動でなわとびカードを活用し、目標を意識して、運動に意欲的に取り組めるようにする。	①1日3回の歯みがきが定着したか。 ②朝ごはんチェックの取組や食育の指導を行うことができたか。 ③志水っ子ランニングに進んで取り組めたか。 ④なわとび運動に目標を意識して、意欲的に取り組めたか。	児童 ①3. 3 ③3. 2 ④3. 5 保護者 ①3. 0 ②3. 0 ④3. 0 職員 ①3. 4 ②3. 1 ④3. 1	歯みがきができたと回答したのは、児童が85%であるのに対して、保護者は70%であり差があったが、概ね定着している。 朝ごはんについては、児童と保護者の約80%ができたと回答していることから、保護者の協力を一定数得ていると考えられる。給食完食週間や日々の給食指導の中で、バランスよく食べることの大切さを伝え、意欲を高められるようにした。 なわとび運動については、児童の89%ができたと回答した。集会でのデモンストレーションや縄跳び運動で大縄に取り組んだことで意欲が高まった。	歯みがきについては、家庭でも歯みがきに取り組める手立てを考えていく必要がある。 来年度も、志水っ子ランニングやなわとび運動に、児童が意欲的に取り組むことができる指導法を考えていく必要がある。
				○開かれた信頼される学校づくり	・地域のボランティア、ゲストティーチャーの意図的・計画的な活用	7	小柴教頭	①学年便りなどの文書やPTA委員会などを通じて、家庭や地域からボランティアの人材を募集する。 ②各教科の学習内容に沿った出前講座や見学施設を活用するよう計画を立てる。 ③活用したゲストティーチャーによる出前授業や施設の見学は、次年度への記録を残す。
・家庭や地域の声を生かした有効な学校評価の実施と学校改善 ・学校公開の充実 ・ホームページ、各種たよりを活用した情報発信	8	教頭 齋藤 佐藤	①前年度実施のアンケートの意見を生かすとともに、学校教育目標、重点努力目標に基づき、班ごとの取組を計画的に行う。 ②自己評価書を公表し、学校評議員会・学校関係者評価委員会での意見を反映して評価結果をまとめる。次年度に向けた改善方策を全教職員で具体的に検討する機会を設ける。 ③地域や保護者の方に学校を訪れる機会を計画的に設けるとともに、必要に応じて授業の様子等公開する。 ④学年便りや保健便りを月1回、生徒指導部や体育部からも必要に応じて便り等を発行し、学校の取組について情報発信をする。ホームページを随時更新し、児童の様子を知らせる。					①学校教育目標、重点努力目標に基づいた「具体的な取組」について、全職員が共通理解し、取り組むことができたか。 ②学校評価の取組を学校改善につなげることができたか。 ③地域や保護者の方に学校公開を行うことができたか。 ④ホームページや便りを活用して情報発信をすることができたか。
			○教職員の資質向上と協働体制の確立	・教職員間の学び合いの充実 ・先進校の視察や外部講師招聘による研修の場の設定	9	伊藤 小柴	①低・中・高学年部会において、研究授業に向けた授業内容の検討や指導案検討を計画的に進める。 ②研究授業だけでなく、普段の授業においても、指導方法や指導内容について意見交換を行い、学び合いについての理解を深める ③現職教育のテーマに沿って先進校の視察をしたり、外部講師による研修の場を設定したりする。	①各学年部会において、授業内容や指導法についての検討をしっかりと行うことができたか。 ②普段の授業に関して、教職員間で意見交換を積極的に行い、自分の授業に生かすことができたか。 ③先進校の視察や外部講師の講義などにより、教師としての力量向上に努めることができたか。
・分掌の明確化と協力し合える体制づくり ・ワーク・ライフ・バランスを考慮した職場環境の整備と意識改革	10	校長 山田					①「学校」が有する仕事を適正に分担し、特定の人に負担が偏らないようにする。 ②提案事項によっては、事前に担当者会や学年主任者会を行ったり、アンケート等で意見を募ったりする。 ③報告・連絡・相談が学年間、担当間等で確実に行われ、学校全体に広がるようにする。 ④行事の精選、定時退校日・部活動なし期間の設定等、職場環境の整備を行うとともに、仕事の効率化を図る。	①仕事が特定の人に集中していないか。 ②お互いに協力し合い、意見を交わせられる体制になっているか。 ③報告・連絡・相談体制が機能しているか。 ④職場環境の整備と職員の意識改革が進んだか。
			学校関係者評価(その他の意見・改善策等)					
<外国語の授業> ・担任が英語の授業を行うのは無理がある。ネイティブの発音を聞いて、耳を鍛えてほしい。そのためには、ネットを活用したり、TV中継とか「スカイプ」とかの利用など、工夫をしてほしい。 ・AL Tの授業を参観したが、児童の授業への意欲を感じた。生の英語は大変よい。 ・英語に限らずではあるが、なぜ学ぶのかという目的意識が必要だろう。勉強する必要感をもたせてほしい。 <教育相談活動> ・困ったことを相談できない児童が少数だが存在する。道徳での学びやSCの活用など考えてほしい。年1回はSCと話せる機会を作るなどどうか。 ・カウンセリングという言葉は重い。ちょっとした相談が気軽にできるような環境にできないか。 <Ipadの活用> ・授業参観で、4年の社会科を参観したが、伝統工業についてネットを活用して生きた学習をしているな、と感じた。 ・プログラミングについては、評価が低いので、今後ぜひ改善してほしい。 <家庭学習> ・宿題を教えようと思っても、自分がやってきたやり方でないので、教えられない。例えば、さくらんぼ計算など、やり方をプリントなどで教えてもらえないか。						<下校・あいさつ> ・みんなでまとまって帰ってきているので、安心である。 ・こちらからあいさつをすれば、あいさつが返ってくる。あいさつ運動で、みんなが並んで挨拶をしているのはとてもよい。 <食育・体作り> ・年3回の取組では、保護者も張り切って朝ごはんを作り、楽しんでいる。 ・なわとびやランニングなど、基礎体力をつける取組は大切である。協力できることがあれば、協力したい。 <キャリア教育> ・5・6年生で行った仕事の話は、大変よかった。うまく話せなかったところもあるが、真剣に聴いてくれた。 ・将来なりたいものに向かって、具体的にどのようにしていくとよいのかイメージがわくとよいと思う。 <学び合い> ・授業で分からないことを聞けているのか、気になるところである。 ・1年生で、発表名人を決めるということがあったが、どの子も一生懸命聴いて理由もしっかりと言えていてすばらしかった。 <指導・その他> ・子ども同士、先生との会話など、日本語が汚くなっている。先生は厳しく言えないのか、気になるところである。 ・野外学習で、小さな係でも全員が役割をもっていて、それぞれが考えて取り組むことで達成感を味わった。自己有用感を育てていただいていると思う。 ・子どもに愛情をもって接してくださる先生方に感謝している。 ・学校が、あいさつや食事、歯磨きなど、親がすべきことをやっていただいている。親はもっと知るべきではないか。 ・1年生で、着席ポイントでシールがもらえるなど、子どもの意欲を引き出してくださっていて楽しんでいる。		